

# つなぎあつて元気に

36

2012 春号

## 平山光子後援会

事務所  
大牟田市原山町1-5  
0944-53-1661

自宅  
大牟田市倉永1651  
0944-58-1252

メールアドレス  
mitsuko2007@tng.bbq.jp

ホームページ  
www.mitsuko-hirayama.net



## 新年度スタート 希望の春に・

暖かな陽ざしを待ちかねていた花々がいつせいに咲き出しました。本格的な春の訪れです。

東日本大震災から一年が過ぎましたが、被災地ではまだまだ多くのかたが厳しい避難生活を続けておられます。特に原発事故のフクシマでは、十六万人の住民が故郷を追われたまま、様々な困難が続いています。被災地の方々に、一日も早く希望の春が訪れることをお祈りするばかりです。



満開の桜の下、9日に中学校、10日には小学校で入学式が行われました。今年、大牟田市内小学校の新生総数は841人でした。

## 3月議会報告

2月16日から3月19日まで3月議会が開催されました。

今議会は、休日保育の実施、小児医療無償化の拡充、市民活動保険費、余ランテニア活動時の保障制度、快適住マイル改修事業費（住宅リフォーム助成）など、積極予算も組まれましたが、一方で、給付費増による介護保険料や国民健康保険料の値上げなど負担増に繋がる厳しい内容も提案されました。その他、レマン後に多世代交流施設を建設する計画や小中学校の給食問題（小学校での調理委託、中学校のセンター方式による完全給食実施案）など課題が多い議会で、質問も相次ぎました。

（護憲ニュースを参照ください）

それを受けて、市では介護保険料の独自減免が拡充されるなど一定の成果がありました。また、県から配置されていた、不登校等厳しい子どもたちの支援に当たるスクールソーシャルワーカーはもっと増員して欲しいくらいですが、南筑事務所管内で1名しか配置がなく、引き上げられるという厳しい状況になり、私の方で提案した「スクールソーシャルワーカー配置の拡充を求める意見書」は全会一致で可決されました。

今年度、市の予算で配置される予定です。

## 予算特別委員会 平山光子の質問

質疑質問が終わった8日から15日までの6日間、部局ごとに条例改正案や新年度予算の説明を受けて全員で審査を行いました。

今回は、次のような項目について質問・要望を行いました。

小学校給食に拠点校方式による調理委託が導入されるが如何なものか、今後も自校方式はしっかり守ってほしい。（教育委員会）

学校配当予算が少なく現場は困っている。現場の声を聞いて改善を。（教育委員会）

手鎌地区地区公民館のパソコン更新が行われるが、ニーズを調べて他の公民館にも順次拡げていくべき。（教育委員会）

男女共同参画の推進には庁内の連携を図って、実効ある推進策を。（市民部）

早期に成年後見センターの設置を（保健福祉部）  
高齢者の雇用確保、生き甲斐づくりの観点からシルバー人材センターの陳情をしっかりと受け止めてほしい。（保健福祉部）

いきいきクラブの廃止については、これまでの取り組みの総括を、次の施策につなげるべき。（保健福祉部）

次世代エネルギーパーク、基盤のある本市、県とも連携を図りしっかりと推進を。（産業経済部）

駐輪場のない駅の実態を調べ改善を。（都市整備部）



## フクシマレポート

～ 原発事故の現地調査を終えて～  
**福島県を訪れたたくさんの現場を見ました。**

昨年3月11日のまま、壊れた家やひっくり返った車や船などが放置され、田畑も荒れ果て、置き去りにされたペットや家畜も見かけました。病院の前にはペットや車椅子が放置され、見えない放射能汚染を鳴りやまない線量計が知らせていました。

**たくさんの方に話を伺いました。**

医療や介護、学校、自治体などで働く方、福島第一原発の作業員だった方や原発の反対運動を続けてこられた方、放射線の研究者などに、驚きのお話をたくさん伺いました。

**取り返しのつかない原発事故**

福島の人々は住み慣れた家や地域、仕事や学ぶ場など、日常生活を根こそぎ壊され、今も苦悶しておられることを実感しました。

子どもたちに希望の未来を取り戻せるのだろうか、何ができるのだろうか、何をしなければならないのだろうか… 今も答えが見えません。

医療現場から、教育現場から、多くの画像など詳しい報告をホームページに掲載しています。

## 子どもの未来に希望をつなぐ村

～ 飯館村「までの力」が「希望への翼」に～

昨年、飯館村の本「までの力 ～福島県飯館村にみる一人一人が幸せになる力～」を紹介しました。「までの」の語源は「真手」。手間ひま惜しまず、丁寧に、心を込めて、つつましくという意味合いの方言だそうです。飯館村は、手厚い子育てへの支援策や丁寧な人づくり、仕事づくりなど、村長さんを中心に村が一丸となって美しい優しい地域づくりをしてこられた村です。

原発事故後、高い濃度の放射線汚染が明らかになり全村避難が必要な計画的避難区域となりました。村の皆さん方の無念さは如何ばかり…、どんなに絶望しておられるだろうとただただ悲しんでいました。

ところが、今年3月になって、飯館村の新しい本「希望への翼」のお知らせが届きました。飯館村の子どもたち18人が派遣された、2011年8月・ドイツ「持続可能な社会」研修の旅の記録でした。まえがきには、「このようなときだからこそ前を見よう」「村の未来を託す子どもたちを大切にしよう」、不安と闘い、小さな胸を痛めている子どもたちに、震災や原発事故に負けず、しっかりと向き合っていく力を育むために「未来への翼」が計画され、全国の支援を受けて実現したという菅野村長の言葉がありました。

飯館村から感動と希望をいただいた思いです。

発行 株式会社 SAGA DESIGN SEEDS ￥2500

024-597-6800 (利益は飯館村の復興に)

## 原発に依存しない社会を願って

ドイツでは、福島原発事故から3日後には老朽化した原発7基を3ヶ月停止して安全点検を徹底すること、さらに、2020年までに脱原発、再生可能エネルギーに転換することを決めました。

ところが事故の当事者であるこの国の動きはどうでしょう。クリーンで安上がり、事故は起きないという安全神話を信じ込ませて、地震大国に54基もの原発が作られてきたことや、取り返しのつかない原発事故が起こってしまったことの検証と総括が不十分なまま、関西電力大飯原発の再稼働に向け、国は拙速に安全宣言を行っています。事故の分析を踏まえた根本的な安全対策や、将来のエネルギービジョンとその道筋を示すことが先ではないかと思えます。

深刻な状況がつついていると思われる福島第一原発の事故現場(特に1538本もの使用済み核燃料がおかれている4号機)の情報も殆ど新聞やテレビでは報道されません。

私たちはアンテナを高くして正しい情報を集め、事実を知って、共有しなければならない、そして、この国のエネルギー政策を変えていくために、一人でも多くの人と繋がって大きな力にしていかなければならないと思っています。

### これまでの脱原発に向けた取り組み

2011.8

#### 原発問題学習会

福岡市から、玄海原発に詳しい末永節子さんを招いて、原発の仕組み、電力について学びました。



2011.秋～2012.2

#### 脱原発1000万人署名

ゆめタウンで、皆さんに安全神話に隠された原発や電力問題を訴え、署名を呼びかけました。



2012.3.11

#### さよなら原発 大牟田市民集会

多くの人が集った集会。私も、福島第一原発の警戒区域(20キロ圏内)で見てきた状況などを報告しました。



今後できることを考え、取り組んでいきます。